



本日はよくお参り下さいました

三月になりました。2月27日

には、県立高校の合格発表が行われ、受験された皆さんは、進路がきまり、ホッとされているのではないのでしょうか。さて、



平昌五輪での日本人選手の活躍、素晴らしかったですね。全ての選手や関係者に、健闘を称えたいと思います。次はいよいよ2020年の東京オリンピックですがその前に、天皇陛下の御譲位という一大行事があります。来年行われる御譲位に関わる一連の行事を、国民として、しっかりと支えていきたいものですね。日本の皇位は国民の象徴であるとともに世界最長の伝統を持つといわれています。しかし両陛下は近寄りがいどころか、常に私たち国民に寄り添い、毎日を過ごされてきました。私たちの今上陛下への敬慕の念は、いつまでも尽きることがないでしょう。今月も皆さまのご多幸をお祈り申しあげます。権禰宜道子

3月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

3日 ひなまつり 古来中国で

行われていた川で身を清め不浄を祓う習慣が平安時代に日本に伝わり宮中で曲水の宴という形で祓えが行われるようになったのが由来とされています。その後曲水の宴は廃れましたが、人形を作り、それにけがれを移して川や海に流し不浄を祓うようになりました。江戸時代以降に現在のようなひな祭として広まりました。



6日 啓蟄(けいちつ) まだまだ寒い時節ですが日足も目に見えるように長くなり日の光の中に春を強く感じるようになります。

11日 東日本大震災 震災発生時刻の午後2時46分には、それぞれの場所において、黙とうをしましょう。

18日 彼岸入り 「天神さまの豆知識」 参照。

21日 春分・彼岸の中日 宮中においては、この日、春季皇霊祭というご先祖祭が行われます。

24日 彼岸明け 「天神さまの豆知識」 参照。

天神さまの豆知識

「春のお彼岸(ひがん)」

春分の日を中日とし、その前後3日間、計七日間を彼岸といいますが、一日目は彼岸の入り、七日目は彼岸の明けです。また、通常彼岸と言えは春の彼岸をさします。俳句においても春の季語として用いられます。彼岸とは生死の境を渡った向こう岸、つまり仏の国を意味する言葉です。もとは迷いの世界である現世から悟りの世界である仏の国に行くことができるよう修行に励むという仏教行事でした。現在は彼岸の期間には先祖供養のための寺参り、墓参りが盛んに行われています。これはこの時期に先祖の霊を丁寧に供養すれば、きっとその霊魂は仏の国に行くことができるという仏教の教えにちなんでいます。このように、現在の彼岸の行事は非常に仏教色が強いものとなっています。とはいえ、インドや中国ではこのような習慣を見ることはできず、彼岸は日本特有の行事となっています。その理由としては、古来、春分の日は季節の変わり目にあたることから、農事の重要な目安とされてきました。そのため、春の農耕開始の前に祖霊をまつり、豊穡を願う儀式

今月の言葉

『敬とは道である』

敬という心は、言い換えれば少しでも高く尊い境地に進もう、偉大なるものに近づこうという心である。したがってそれは同時に自ら反省し、自らの至らざる点を恥ずる心になる。省みて自らおそれ、自ら慎み、自ら戒めてゆく。偉大なるもの、尊きもの、高きものを仰ぎ、これに感じ、あこがれ、それに近づこうとすると同時に、自ら省みて恥ずる、これが敬の心である。東洋では等しくこれを道という。参考文献『安岡正篤一日一言』安岡正泰監修 平成十八年六月二日 致知出版社発行

が行われてきました。これが仏事に取り込まれ、日本独特の風習になったのではないかとみられています。参考文献『神道としたり事典』茂木貞純監修 二〇一四年(株)PHP 研究所発行 『現代こよみ 読み解き事典』 柏書房発行

